

保守層くすぶる不満

靖国参拝・新元号……「改憲」がかすがい

自民党

研究

政変を問う

「その日」

「削るのはこんでもない」と常に言ってきた。今年も入ったのは評価している」

全国約8万の神社で構成する神社本庁の関係団体「神道政治連盟（神政連）」事務局長を務める小間沢肇がこだわったのは、2月10日の自民党大会で採択された運動方針の一節だ。

「靖国神社の参拝を受け継ぎ、国の礎となられた英霊の御霊に心から感謝と哀悼の誠を捧げ、不戦の誓いと恒久平和への決意を新たにしていこう」

党を支持する保守系団体に限らず、この一文には首相で党総裁の安倍晋三（64）も特別な思いを寄せる。あの表現はそのままだよね。そんな安倍の意をくみ、2012年の第2次安倍内閣発足以降、党は文章にほぼ手を加えていない。

第2部 団体・組織 ⑦

だが、安倍は13年12月を最後に靖国神社を参拝していない。「やはり首相自身が参拝に踏み切り、英霊に祈りをささげてほしい」。小間沢ら保守層はじりじりとその日を待っている。

現役首相として7年4か月ぶりに電撃参拝した安倍は、中国と韓国の強い反発

を受け、同盟国の米国すら「失望」を表明した。その後は参拝を封印し、中韓と関係改善を進め、強固な日米同盟作りこま進んだ。戦後70年談話への「おわび」「侵略」の明記、慰安婦問題に関する日韓合意、米ハワイの真珠湾訪問。持論の保守色を抑え、現実路線に重きを置くことが安倍の政権運営の要諦となった。

元女性活躍相で、神政連に推挙されている。現実路線への不満は確実に堆積している。「遺憾の意を表明せざるを得ない」

「身内」の批判

保守系団体「日本会議」は機関誌の2月号で、新元号を4月1日に発表する政府方針を批判する見解を発表した。政府は国民の利便性を考慮して事前公表を決めたが、日本会議などは「新元号の政令は新天皇が署名、公布すべきだ」と強く主張している。

日本会議は1997年、複数の保守系団体が統合して発足した。99年に成立した国旗・国歌法を巡る国民運動を主導し、保守系団体の中核組織となった。「日本会議国会議員懇談会」には超党派の衆参約2900人が参加し、安倍も特別顧問を務める。「身内」からの痛烈な批判だった。

「中道的な政策を」45%

読売新聞社の自民党員調査で、自民党は今後、どのような政策に軸足を置くべきかと思うか聞いたところ、「保守・リベラルに偏らない中道的な政策」が45%で最多だった。



靖国神社の参拝を受け継ぎ、改め、訪をつける覚悟である。また、靖国神社の参拝を受け継ぎ、感謝と哀悼の誠を捧げ、不戦の誓いと恒久平和への決意を新たにしていこう。党は地方に立脚し、本年は統一地方選挙と参議院議員総選挙を控えている。

議論停滞

「政治は現実」。安倍は周囲にこう語り、世論の風を意識しつつ安定政権を維持してきた。結党以来の党是であり、自身の悲願である憲法改正を実現するためだ。保守層をつなぎとめる改憲を語る安倍の言葉は、勇ましい。

「憲法にしっかりと」「自衛隊」と明記し、違憲論争に終止符を打つ。私は、その責任をしっかりと果たして

自民党は今後どのような政策に軸足を置くべきか



「中道的な政策」49%、「リベラルな政策」26%、「保守的な政策」15%の順だった。

保守派の論客で、安倍にも近い麗澤大教授の八木秀次は指摘する。有村はそもそも「保守」の概念が変わってきていると感づいている。保守・革新を知らない世代が出てきている。自民党が保守政党だと言ってもみんなとこない人もいる。

保守合同による結党から63年余。世論を敏感に察して変化を遂げてきた自民党は、さらなる変化を迫られている。（敬称略）